平成２１年度　四国国語教育大会研究主題

１　研究主題

主体的･自覚的にことばを学ぶ子どもが育つ国語科授業の創造

-「読むこと」を基盤に，知識･技能の習得と活用する力の育成を図る学習指導-

「知識・技能の習得」と「活用する力」の関係は，次ページの「『読むこと』を基盤に」・「活用する力」の考え方」を参照。

２　研究主題設定の理由とその考え方

（１）基本的な考え方

改正教育基本法の施行を初めとして，全国学力・学習状況調査の実施，中央教育審議会答申，新学習指導要領告示，そして移行など，教育界においても，国際・高度情報社会に対応すべく諸施策が出されている。この変化の激しい時代を，子ども一人一人が，豊かな心をもち，たくましく生きるためには，生きてはたらくことばの力が身に付くようにし，自他のことばを尊重する心情や態度を養うことが大事である。

特に，近年強く求められている実生活に生きてはたらき，各教科等の学習の基本ともなる国語能力を育てるという役割を担い，人間形成の中核をなすことばをはぐくむ国語科においては，ことばを通して豊かに他者や社会とかかわり合い，意欲的に，ことばへの興味・関心をもちながら，自己の言語生活を豊かにし，国家や社会の一員として，願いや思いを実現していく「生きる力」を備えた子どもを育てることが責務となっている。また，学力低下の問題への対応も含めて，新学習指導要領でも言語教育の充実を図るよう示されている現状がある。

○国語科の立場は，文化審議会答申・中央教育審議会答申等に詳しい。

○新学習指導要領には,「言語事項」に代わり「伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項」が新設された。

○現代の社会を生きていく子どもに求められる姿を挙げた。

（２）これまでの研究から

本県国語部会では,「生きる力」を備えた子どもを育てることをめざし，平成１８年度より，子どもの実態や社会の要請から，読む力を学習者一人一人に培うことに重点を置き，実践研究に取り組んできた。私たちは，一人一人の実態を見据え,「読むこと」と,「話す・聞くこと」「書くこと」とを「考えること」で結んで，様々に指導・支援してきた。平成１８年度以降の実践研究における主な成果を列挙すると，次のようになる。

＊　　＊　　＊

① 「読むこと」への興味・関心を把握して，国語能力を系統的にとらえ，読む力の育成を図ったこと（読む力の育成）

② 「読むこと」の指導内容を考慮した教材編成や教材開発をすること。(「読むこと」の教材開発)

③ 思考力を働かせて，読んだことを表現したり，表現したことを読んだりする単元を開発し，展開すること（「読むこと」を見据えた単元の開発）

④ 「読むこと」を見据えた国語科授業における指導・支援の工夫をすること（「読むこと」を見据えた授業の充実）

○平成１２年度以降の成果は次の通りである。

・学習者理解
・国語能力（表）
・年間指導計画
・国語科授業の充実
・評価の具現化
・目標設定・指導・評価の一体化

本研究は，これらの成果と，これまで研究してきた「単元学習の理念」を踏まえたものである。

（３）「主体的・自覚的にことばを学ぶ子ども」が育つ学習指導

本研究主題は，言語の教育としての国語科の役割を再認識し,「主体的にことばを学ぶ子ども」「自覚的にことばを学ぶ子ども」が育つための国語科授業を創造していくことを目的としている。これは，国語科においても，理念として新学習指導要領でますます重要とされる「生きる力」（基礎・基本を確実に身に付け，いかに社会が変化しようと，自ら課題を見つけ，自ら学び，自ら考え，主体的に判断し，行動し，よりよく問題を解決する資質や能力など）をはぐくむ必要があると考えたからである。

○「主体的・自覚的にことばを学ぶ子ども」を求める理由を挙げた。

・国語科における「生きる力」をめざして

（４）「主体的・自覚的にことばを学ぶ子ども」のとらえ方

一人一人が,「自分は何のために学んでいるか」,「どのようにことばの力を付けているか」などが分かるというように,「自覚的にことばを学ぶ」力を身に付けていけば，自己のことばの学びや生活を見つめるとともに，満足感や自己肯定感を得るようになる。

また，一人一人が,「主体的にことばを学ぶ」力を身に付けていけば，自己の国語科学習の成果と課題を明確にして，自らの課題を解決しようと，意欲をもち続け，進んで取り組んでいくようになる。

ことばを学ぶ自覚が芽生えることにより，より主体的に学ぶようになり，主体的に学ぶことにより，いっそう自覚が深まっていき，学んだことを定着させることができる。このように,「自覚的にことばを学ぶ」ことと「主体的にことばを学ぶ」こととは，螺旋的（らせんてき）に繰り返されるととらえる。

○「主体的・自覚的にことばを学ぶ子ども」のとらえ方とそのよさを挙げた。

（５）「主体的・自覚的にことばを学ぶ子ども」の姿

一人一人が「主体的・自覚的にことばを学ぶ」ためには，意欲をもって言語活動に打ち込む単元・授業を展開していくことが大切である。

このように考えると，「主体的・自覚的にことばを学ぶ子ども」として，たとえば，次のような姿が考えられる。

＊　　＊　　＊

① ことばへの興味・関心をもち，そのよさなどに気付いたり，理解したりする子ども

② 進んで自己のことばの生活を見つめ，その中から，学ぶ価値のある課題を発見する力，また，ことばの生活・文化についての課題を育てていく力や問い続ける力を有する子ども

③ 「話す・聞く」「書く」「読む」言語活動を，確かに，豊かに展開し，情報の収集，選択などを行いつつ，課題を解決したり，自己の考えをつくり出したりすることができる子ども

④ 「話す・聞く」「書く」「読む」言語活動を，他（他者や学習材）とかかわりながら展開し，自己の考えを伝え合いながら，よりよい考えをつくり出していくことができる子ども

⑤ 一連の学習を通して，ことばの学びの過程や成果を確認することができ，満足感や自己肯定感を得て，新たな学びへの意欲へと変えていく子どもや，振り返る習慣をもつなど自己評価のできる子ども

○めざす子ども像の「例」を挙げた。

・興味・関心をもたせ，育てることから，自己評価へとなっているが，「螺旋的」に

３　研究副主題設定の理由とその考え方

（１）「『読むこと』を基盤に」・「活用する力」の考え方

情報社会を迎え，表現方法の多様化とともに，再び，図や表，グラフやパンフレット，新聞等を含めた読む活動も視野に入れて，それらをことばや文章と相関させて読む力も必要である。

本研究において，「『読むこと』を基盤に」とは，読む力を言語活動・国語力の基底にあるととらえ，「話す・聞くこと」「書くこと」「伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項」と単元内・単元間等で意図的・計画的に関連を図り，生かすことによって，読む力を育てていくことをねらっている。

国語科における「活用する力」とは，習得した知識・技能を生かし，思考力・判断力・表現力等を働かせて，目的・意図・課題等に応じ，言語を操作したり運用したり，生活に生かしたりする力のことであるととらえている。その過程において，思考力・判断力・表現力等は育つと考える。

○特に「『読むこと』を基盤に」・「活用する力」の概念を規定した。

（２）「読むこと」を取り上げた理由

本県の子どもの国語力の実態として，「平成２０年度徳島県学力調査」では，書く力及び読む力を付けることが，「全国学力・学習状況調査」では，「読んだこと」を活用することによって思考力・判断力・表現力等を育成することが，課題に挙げられている。平成１８年に実施された経済協力開発機構の「生徒の学力到達度調査」の結果を受けて，「書くこと（話すこと）」につながる「読解力」（いわゆる「ＰＩＳＡ型読解力」）の向上も引き続き求められている。

子どもの国語力の実態と社会の要請から，緊急の課題として「読むこと」の学習指導の充実があるととらえ，本研究では，子どもが主体的・自覚的にことばを学ぶ国語科授業を展開していく過程で，「読むこと」を基盤とした学習指導の研究を進めていくことにした。

○子どもの実態と社会の要請から「読むこと」を取り上げる。

・子どもの国語力の実態

・文部科学省の調査結果

・経済協力開発機構の調査結果

（３）学習指導の充実の方向

平成２０年１月に公表された「中央教育審議会答申」には，「基礎的・基本的な知識・技能の習得やそれらを活用して課題を見いだし，解決するための思考力・判断力・表現力等が必要」と述べられている。わけても，学習指導要領小学校国語の改善の基本方針には，「言葉を通して的確に理解し，論理的に思考し表現する能力，互いの立場や考えを尊重して言葉で伝え合う能力を育成することや，我が国の言語文化に触れて感性や情緒をはぐくむことを重視する」という方向性が示されている。

現在，国語科においても，「基礎・基本となる知識・技能の習得」と「それらを活用した思考力・判断力・表現力等の育成」の両方を総合的にとらえて指導することが求められている。このことは，学習意欲を高める工夫をしながら，知識・技能と思考力・判断力・表現力等とを結び付けていくことである。私たちは，子どもの興味・関心・必要に根ざす話題をめぐって組織する価値ある言語活動を通して，知識・技能の定着を図りながら，それらを活用する場をどう設定し，活用する力をどう付けていくかを研究しなければならないと考える。

○「基礎・基本となる知識・技能の習得」と「それらを活用した思考力・判断力・表現力等の育成」は，両方を総合的にとらえて指導することが大事である。

（4）「読むこと」を基盤にした言語活動例

「読むこと」を基盤にした言語活動には，次のような例が考えられる。なお，新学習指導要領の趣旨に則り，「読むこと」とかかわらせた記録，説明，報告，紹介，感想，討論などの言語活動を充実させていくことが欠かせない。

＊　　＊　　＊

① 文章を意欲的に，楽しく進んで読む。
② 文章を目的や意図に応じて読む。
③ 叙述に即して，正確に読む。
④ 叙述に即して，豊かに読む。
⑤ 自己の課題を解決するために，目的をもって読む
⑥ 思考を深めたりまとめたりしながら読む。
⑦ 自己の考えや他の情報と比較したり，検討したりしながら読む。
⑧ 読んだことに対して，自己の考えや感想・意見をもつ。
⑨ 読んだことについて，その要旨や筆者の考えなどをとらえて書いたり，話し合ったりする。
⑩ 読んだことを活用して，自己の考えや感想・意見を書いたり，話し合ったりする。
⑪ 読んだことや読む活動を日常の生活に生かす。
⑫ 読んだことを自らの読書生活に生かし，読書の世界を広げる。　など

○言語活動例を挙げる。
ここに挙げたことは，あくまでも「例」であり，多様な言語活動が求められる。したがって，各学校や学級の子どもの実態に応じて自在に言語活動を組織していきたい。なお，①から④は，主に「知識・技能を習得する活動」，⑦から⑫は主に「活用する力の育成を図る活動」，⑤・⑥はその両方にまたがる活動「例」である。

4　研究の内容と方法

（1）主体的・自覚的にことばを学ぶ力を育てるために，次のことを意図的・計画的に行う。

①　他とのかかわり合いによって，伝え合う力を育てる。

主体的・自覚的にことばを学ぶ力を付けるためには，他とのかかわり合いは欠かせない。

他（他者や学習材）と出会い，深くかかわり合うことによって，子どもは，他に触発され主体的になり，他のよさを理解し取り入れたり，自己の成果や課題を発見したりすることができる。また，他者の学習と比較したり重ねたりすることによって，子どもは，自他を見る目がひらかれ自覚的になり，自他の学習を改めてとらえることや，自他の学習の様子を振り返るための多様な視点を得ることなどができる。さらには，他とのかかわりによって，他を尊重する意識も生まれ，他者とともに学ぶ喜びや学習意欲も生まれてくる。

他と深くかかわり合うための，伝え合う力が育つよう指導を行いたい。

●研究主題解明のために
○「主体的・自覚的に学ぶ子どもを育てる」ための内容である。
・他（他者や学習材）とかかわる（交流する）という観点から

②　自己の学習の成果や課題，成長など，学びの姿をとらえる力を育てる。

主体的・自覚的に学ぶ力を付けるためには，学習活動や学習内容などを振り返り，記録として残していく活動が大事である。「学習の記録」をまとめることを通して，自己の成長を実感し，満足感や自己肯定感を得るとともに，学んだことの成果や次への課題を見出すことができる。

必要なことを記録として書き記したり，継続して記録を書き重ねたりする力，学んできたことをまとめて書く力等が育つよう，指導していくことが求められる。そうすることで，学習した内容をさらに定着させることや学習意欲を高めることもできる。

・自己評価力を育てるという観点から
○「学習の記録」とは，子どもの表現物・ノート等を指す。

（2）「読むこと」を基盤にした国語科授業の充実を図るために，次のことを意図的・計画的に行う。

①　「読むこと」と「話す・聞くこと」「書くこと」「伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項」との能力の関連を図る。

年間指導・評価計画を立案，単元・授業を構想する際には，「読むこと」と「話す・聞くこと」「書くこと」「伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項」のそれぞれの国語能力を，どのように関連付ければ子ども一人一人が思考・判断・表現し，活用する力を身に付けていくか，関連のさせ方が重要である。関連を図る際には，読む力と話す・聞く力，書く力とを結んで，思考力・判断力・表現力等を働かせながら活動できるように工夫する。

●研究副主題解明のために
○「読むこと」を基盤にした授業の充実を図るための内容である。
・能力の関連を図るという観点から（指導者の側から）

②　「読むこと」を基盤にして，子どもが意欲的に学ぶ単元を構想・展開する。

「読むこと」を指導する単元の目標や子どもの実態に応じて，言語活動や学習材は多様である。単に学習材の内容を読み取るのではなく，「読んだことを，相手に知らせるためにレポートを書く」「読んだことについて，感想や意見を話し合い，考えを深める」など，「読むこと」を「書くこと」や「話す・聞くこと」とを結んだ単元を開発していく。その際に，指導者は，国語能力表等をもとにして，適切に目標を設定し，学ぶ過程を重視して評価するとともに，意欲的に学ぶことができるよう，言語活動の内容に留意しなければならない。

・「読むこと」を基盤にし，学習意欲を育てる単元開発の観点から

③　基礎的・基本的な知識・技能を定着させ，それらを活用する力を育てる。

毎時間の学習指導の目標を明確にし，子どもの学習意欲を高めたり持続したりする工夫をしながら，基礎的・基本的な知識・技能のいっそうの定着を図る。また，目標に応じて，それらを思考・判断・表現し「活用する場」を意図的に設定して，学習意欲を喚起しつつ，活用する態度や能力を着実に身に付けていく学習指導が必要である。

そのために，「読み取ったことを自分なりに書いたり話したりすることで，思考力や表現力等を育成する」「書いたり話したりするために個別に読む，あるいは集団で読み合うことで，思考力や判断力等を育成する」「思考力や表現力等を育成するために，個別または集団で思考したり表現したりする言語活動を組織する」など，交流する場を設けることを視野に入れた学習指導が考えられる。

・知識・技能の定着と活用する力を育てるという観点から

④　「学習の手引き」や「学習の記録」の活用をするなど，「読むこと」の学習指導の充実を図る。

「読むこと」を基盤にした言語活動を組織し，国語力を育てていくためにも，「学習の手引き」や「学習の記録」が欠かせない。子ども一人一人の学習の成果や課題等を「学習の記録」から把握し，子ども一人一人の実態に応じた「学習の手引き」を活用することによって，「読むこと」を基盤にした学習指導を充実させる。

・実際の授業における指導の充実という観点から

（３）「読むこと」を確かで豊かにするために次のことに留意する。

①　他教科等との関連を考慮し，年間指導・評価計画を作成する。

すべての教科等で国語力を育成するために，他教科等との関連を考慮することにより，読む力を豊かに活用する場が，必然性をもって生まれる。子どもは国語科で身に付けた力を活用しながら，繰り返し学んでいくことができ，ひいては，日常生活に生きるようになる。

●「読むこと」を基盤にした国語科授業をより豊かにしていくために。

②　図書館の効果的な利用を図る。

子どもの心を豊かに育てるとともに，読書意欲を高め，読書活動がいっそう活発に行われるようにすることをめざして，図書館を計画的・主体的に利用し，必要な本や文章などを選ぶなどの指導を重視したい。朝の読書や読み聞かせなど，日常の読書への取り組みとともに，学校や地域の図書館の利用を子どものことばの生活に位置付けたい。

○新学習指導要領でも，全教育活動において，言語の教育の充実を図ることが求められている。

○新学習指導要領にも，読書活動の充実が国語科改訂の要点の一つに挙げられている。図書館の活用については，全校的に，計画的・継続的な取り組みの工夫が望まれる。

③　書くための技能を高める副読本等の効果的な活用を図る。

読んだことをまとめて書いたり，読んだことに対する考えを書いたりするなど，「読むこと」が活用できるような国語力を付けるためには，書く力の育成は欠かせない。書く力がなければ，読む力が付きにくいことを思えば，書くための技能を高める本県の「作文読本」等の副読本を効果的に活用したい。

○書くための技能を高めることは，今求められている読む力の育成にも，欠くことのできないものである。

④　学級や学校の言語環境づくりに心がける。

音声言語環境としての指導者の話しことばや読み聞かせ，文字言語環境としての背面黒板や掲示板，新聞，さまざまな本等の活用を図る。国語科の指導においては，日々の授業での板書も重要な位置にある。特に「読むこと」においては，学級文庫の利用や充実を図りたい。